

新緑の季節を迎えて

園長 渡邊 博典

新緑の美しい季節になりました。園庭の桜の木もすっかり緑の葉に包まれています。入園式も無事に終わり、各クラスでは、入園した3歳児をはじめ、新しいお友達との生活にも少しずつ慣れてきました。しかし、登園時には、あちらこちらで「お母さん、ママ～」と泣き叫ぶ声が聞こえてきます。この時期だからこそこの光景ですが、一日も早く笑顔のスタートにしてあげたいと願っています。

さて、私も本園に着任して3週間が経ち、園児の名前を覚えながらかわることができるようになりました。毎朝、各クラスを訪問すると「園長先生、おはようございます！」という元気な声にエネルギーをもらっています。また、一緒に絵本を読んだり、園庭では砂遊びや追いかけっこをしたりと楽しそうに生き生きと活動する様子に幸せな時間を感じ、子どもたちに感謝しています。

先日は、モンテッソーリ教育の研修を受け、改めて幼児期の教育の大切さを実感しました。その内容は多岐に渡りますが、日常の動作を子どもたちに教える時の保育者の言葉がけや動きにも新しい発見がありました。良い習慣、正しい動作や作法を一度身に付けるとその後の生活が過ごしやすくなります。例えば、お箸の持ち方やスプーンの使い方、鉛筆の持ち方などはその最たるものです。「三つ子の魂百まで」と言われるように、幼児期に身に付けた習慣は、やがて性格形成に大きく影響します。何気ない日常の動作が正しくできるようになるには、どうすればよいでしょう。やはり、親や保育者がどうするかをゆっくりやってみせること、そして、見せてやらせての繰り返しから、「できた」という達成感を持たせることが大切でしょう。しかし、登園前の慌ただしさの中では、なかなか難しいこともあるでしょう。「早くしなさい」の声掛けが多くなるのも共通の悩みではないでしょうか。そんな時は、何かひとつ一週間通して親子で頑張る目標を立ててもよいですね。私たちも研鑽を積み重ね、子どもたちに還元して成長を見守りたいと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、東京や大阪等には3回目の緊急事態宣言が出され、千葉県でも先行きの見えない状況が続いています。これからも制約の多い日々が続きますが、園と家庭で協力し合いながら進めていきたいと思えます。例年行われていたアンデルセン公園の親子行事は、行田公園に変更して申請を試みましたが公園側より許可が出ませんでした。さらに、親子でランチを一緒に摂ることも検討しましたが、船橋市がまん延防止等重点措置に指定されたことから断念し、短時間のクラス懇談会を実施することになりました。今後も実施予定の教育内容について急遽変更する場合もあるかもしれませんが、ご理解・ご協力いただけますようお願い申し上げます。